

3人4脚



R 4. 1/14(金) 第10号
二宮西中学校学校だより
発行者:和田 智司

「令和3年を超える自分になるんだ」

今年もよろしくお願いします!!

～自分の目標や課題をしっかりともち、夢に向かって努力を続けて欲しい～

令和4年(2022年)の新しい年を迎えました。本年もどうぞよろしくお願いいたします。冬休みの間、子どもたちは幸い大きな事故やけがもなく楽しく過ごせたようです。ご家庭でのきめ細かなご指導に感謝いたします。

さて、みなさま新年をどのように迎えられたでしょうか。初夢はご覧になったでしょうか。今年一年、どんな夢や目標をもたれたでしょうか。3月の終業式・卒業式まで約2カ月となりました。一年のまとめをしっかりと行い、来るべき次年度の備えをするときです。夢や目標の実現に向かってこつこつと努力を続けることが大切だと思います。

3学期に入りすでに4日が過ぎました。以前3学期を次のように表現した先生がいます。それは、「いちがつはいつてしまう月」、「にがつはにげてしまう月」、「さんがつはさってしまう月」です。それほど3学期は短く感じる学期です。・・・1/11の3学期の始業式に臨む子どもたちの立派な態度から、「令和3年を超える自分になるんだ」という強い決意を感じました。本校教職員も子どもたちに負けまいと気持ちを新たにしました。

子どもたちには、身近で小さなことでも良いので、自分の目標や課題をしっかりと持ち、夢に向かって努力を続けて欲しいと思います。しかし、なかなか努力しても目に見えるような成果として現れないときもあるでしょう。いやになってやめてしまおうと思うときがあるかもしれません。焦らず、あきらめずにこつこつと続ける大切さを中学生の時に実感して欲しいと願っています。

教職員も一致団結して頑張りますので、保護者・地域の皆様も、お子様を温かく見守っていただき、人生の良きアドバイザーとしてお子様を応援していただけたらありがたいです。今年もよろしくお願いいたします。



オレンジさんありがとうございました!

昨年の12/16(木)に本校体育館においてオレンジさんによる「親子で学ぶいのち」の講演会が行われました。生徒会本部役員が中心となり講演会を進行してくれました。自己紹介のあと中村先生・日野先生・遠藤先生とともに納豆体操をみんなで楽しく踊りました。

泉さんからは自らがいじめをしてきた体験を交えた「いじめの側」の話がありました。その後、田中さんから「いじめられる側」の話がありました。田中さんは中学、高校、芸人時代を通じて10年間受けてきたいじめ体験を語ってくれました。お二人とも芸人らしく笑いを交えながらも、いじめがなぜ起こるのか、どのようにそのいじめを乗り越えてきたのかについて、とても大切なことを生徒たちに伝えてくれました。

泉さんの「感謝の気持ちを決して忘れない」「ありがとうと感謝の気持ちを言えたことは自分を変えてくれた」「自分が良ければではなく、相手がどう考えるかが大切である」という言葉が強く印象に残りました。また、田中さんの「夢をしっかりと持つこと。そのためには知識をしっかりとつけることが大切である」「いじめの加害者になってはいけない」「先生方も保護者の方もみんなの心を見つめてつかもうとしている。辛かったら助けを求めているんだよ」といった言葉も強く印象に残りました。生徒だけではなく保護者や教師も『いじめ』について深く考えることができました。・・・オレンジさんありがとうございました!



「お釈迦様と悪口男」の話から学ぶ

～自分が発した言葉や態度は、相手に届くと同時に自分にも届く～
先日、箱根町で僧侶をしている剣道の先生から、稽古後に素晴らしい話を聞きましたので、ここで紹介させていただきます。・・・



あるところに、お釈迦様が多くの人たちから尊敬される姿を見て、ひがんでいる男がいました。「どうして、あんな男がみんなの尊敬を集めるのだ。いまましいい」男はそう言いながら、お釈迦様をギャフンと言わせるための作戦を練っていました。

ある日、その男は、お釈迦様が毎日、同じ道のりを散歩に出かけていることを知りました。そこで、男は散歩のルートで待ち伏せして、群集の中で口汚くお釈迦さまをののしってやることにしました。「お釈迦の野郎、きっと、おれに悪口を言われたら、汚い言葉で言い返してくるだろう。その様子を人々が見たら、あいつの人気なんて、アッという間に崩れるに違いない」

そして、その日が来ました。男は、お釈迦さまの前に立ちました。ひどい言葉を投げかけます。お釈迦さまは、ただ黙って、その男の言葉を聞いておられました。弟子たちはくやしい気持ちで、「あんなひどいことを言わせておいていいのですか?」とお釈迦さまにたずねました。それでも、お釈迦さまは一言も言い返すことなく、黙ってその男の悪態を聞いていました。

男は、一方的にお釈迦さまの悪口を言い続けて疲れたのか、しばらく後、その場にへたりこんでしまいました。どんな悪口を言っても、お釈迦さまは一言も言い返さないで、なんだか虚しくなってしまったのです。

その様子を見て、お釈迦さまは静かにその男にたずねました。「もし他人に贈り物をしようとして、その相手が受け取らなかった時、その贈り物は一体誰のものだろうか?」こう聞かれた男は、突っぱねるように言いました。「そりゃ、言うまでもない。相手が受け取らなかったら贈ろうとした者のものだろう。わかりきったことを聞くな」

男はそう答えてからすぐに、「あっ」と気づきました。お釈迦さまは静かにこう続けられました。「そうだよ。今、あなたは私のことをひどくののしった。でも、私はそのののしりを少しも受け取らなかった。だから、あなたが言ったことはすべて、あなたが受け取ることになるんだよ」



人の口は恐ろしく無責任なものです。ウワサとか陰口というのは、事実と違って、ずいぶんとでたらめなことがよくあります。ウワサや陰口だけではありません。図太い神経の持ち主で、目の前にいる相手に向かって、直接ひどいことを言う人もいます。

自分を非難されるようなことを言われたら、たいていの人が、ダメージを受けます。誰でも何度かは、傷ついて落ち込んでしまったり、腹が立ってイライラしたりしたこともあるでしょう。でも、お釈迦さまは、違いました。人前で恥をかかされることを言われても、ちっとも動じません。その場を立ち去ることもせず、じっと相手の話を聞いているのに、口応えもしません。それでいて、まったく傷ついたり怒ったりしないのです。

お釈迦さまは、相手の言葉を耳に入れても、心までは入れず、鏡のように跳ね返しました。ですから、まったくダメージを受けないのです。言葉は時として、人の心を傷つけることのできるナイフになります。しかし、心がナイフより固くて強ければ、痛くもかゆくもないのです。ひどいことを言う相手を責めても、仕方ありません。それより、自分の心をみがき、強くする方が、自分自身の人間性を高めることができます。

自分が発した言葉や態度は、相手に届くと同時に自分にも届くということです。相手を傷つける言葉を使えば、相手だけではなく、実は、自分の心も知らず知らずに傷つけ、自分の人間性を下げってしまうのではないのでしょうか。